

Title	アウトソーシングが企業経営に与えるリスクに関する一考察
Sub Title	
Author	布野敦子(Funo, Atsuko) 山根節
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1545号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1545

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	山根 節 研究室	学籍番号	89828811	氏名	布野 敦子
(論文題名)					
アウトソーシングが企業経営に与えるリスクに関する一考察					
(内容の要旨)					
<ul style="list-style-type: none"> ■ 現在、経済不況が長引く日本において、アウトソーシングは、企業の経営効率化に資するものとして、大きな注目を集めている。本論文の目的は、アウトソーシングの失敗事例を分析し、その失敗理由を明確にすることによって、アウトソーシングのデメリット・リスクに焦点を当て、その上で、成功するアウトソーシングに必要な複数企業間の関係構築の在り方を、ユーザー企業の視点に立ち、提言を行うことである。 ■ アウトソーシングに関する文献研究、事例研究、そしてアンケートの結果を分析することによって、日本におけるアウトソーシング市場は未成熟であり、アウトソーシングの定義も非常に曖昧であることが判明した。本論文においては、行政機関、企業、研究機関の各定義を比較検討し、アウトソーシングの定義を設定した。 ■ アウトソーシングは、広義には「経営資源の外部調達」として位置づけられ、その概念は、新しいものではなく、外注などの従来の概念を包含しているものである。狭義には、「ユーザー企業が、業務の運営と当該業務の企画・設計の両方を委託するもの」と位置づけられ、その目的別に、「コスト削減型」、「組織システム型」、「コアコンピタンス強化型」、「新規事業ドメイン創造型」の4つに大別される。更に、この4つのアウトソーシングは、「経営戦略の共有性」と「付加価値の創造性」を軸として、「効率追求型アウトソーシング」と「経営変革型アウトソーシング」に分類される。 ■ 経営変革型アウトソーシングにおけるリスクには、①実務上のリスクと②企業間関係構築パターンから発生する潜在的リスクの2種類が存在する。そして、実務上のリスクが表面化するユーザー企業側の原因としては、①アウトソーシングの位置付けの誤り（ビジネス構築レベル）、②アウトソーシング管理能力の欠如の2点が挙げられる。 ■ 事例研究等より、アウトソーシング市場が未成熟である間は、これらのリスクを回避するために、自社の経営戦略を明確にした上で、アウトソーサーをパートナーとして位置づけ、共通の競争戦略の下、リスクとリターンを共有することで、WIN-WINの関係を構築することが望ましいことが明らかになった。更に、このWIN-WIN関係の構築は、企業間関係構築パターンから発生する「ホールドアップ問題」も解消することができる。 					